

市指定

所在地：町之田

いけじりじんじやにんぎょうきょうげん

池尻神社人形狂言

池尻神社の祭礼において奉納される人形浄瑠璃である。宝暦3年(1753)に当時の庄屋が「神変しんべん 応護桜おうこのさくら」と題した詞章を書き下ろし、翌年の祭礼に奉納したことが古文書によって確認できる。

演目は「神変応護桜」のみで、神社に立ち寄った若者が八岐大蛇やまたのおろちの人身御供になろうとしていた娘を、祭神大山隈命おおやまのみことの神威を借りて大蛇を退治し助けるというものである。

前半は謡曲調、中程は浄瑠璃調、説教節調、そして後半は謡曲調と場面によって調子の変わるのと、人形浄瑠璃の古い形態を残していることが特徴となっている。

